

令和6年12月25日

274号

北の療育

●特集 第50回北療祭を開催して／姉帯さとみ

社会福祉法人 北海道療育園

北の療育 274号

● 巻頭随想

・ 適当にもほどがある？ ————— 原 誠之助 — 1

● 第50回北療祭を開催して

・ みんなおいでよ北療祭 50回だよ！全員集合!! ————— 姉帯さとみ — 5

● グラビア・各事業所の活動紹介／第50回北療祭／ — 8



● サンルーム・夏から秋の療育活動

・ みんなで楽しむグループ活動 ————— 北海道療育園 — 金野 弥生 — 13

・ 半年が経って感じたこと ————— 美幌療育病院 — 松浦明日香 — 15

● 園外活動

・ 僕たちの電車の旅～北海道療育園 第四療育課～ ————— 17

● 滝川たんぽぽ通信

・ 防犯訓練に参加して ————— 浅野目 大 — 21

■ ワークセンターびぼろ

● びぼろだより

・ GH消防設備点検、花火大会、かぼちゃ甘納豆 他 ————— 浦野 紘史 — 23

● あすなる通信

・ 美幌神社秋季例大祭、秋を探しに 他 ————— 内田 久勝 — 25

● らせん

・ 豊かな生活にむけた作業療法～遊びの大切さ～ ————— 小林 昭典 — 27

CONTENTS

2024.12

● つつじの里だより

- ・活動紹介：お弁当レク！園庭レク！花火レク！ ————— 29

● みち

- ・高齢を迎え、考えさせられること ————— 齋藤 忠義 — 36
特定非営利活動法人 とらいあんぐる事務局通信
- ・美幌療育病院・父母の会・みち 秋の活動紹介・スナップショット ——— 39
美幌療育病院父母の会事務局通信
- ・地域連携推進会議について ————— 植村 規 — 40
つつじの里利用者と歩む家族の会事務局通信

● ご厚意ありがとうございます

- ・寄付金一覧 ・物品寄贈一覧 他 ————— 47
- ・職員異動一覧 ————— 48

インフォメーション

- ・作業療法作品の紹介「うさぎさんとくまさん」 第六療育課 梅津 渚さん ——— 4
- ・岡田喜篤先生を偲ぶ会を挙行～日本重症心身障害学会学術集会でも追悼展示～ ——— 12
- ・当法人に陸上自衛隊北部方面総監より感謝状！ ————— 26
- ・旭川市より「多様な働き方推進事業者」の認定証の交付を受ける！ ————— 26
- ・秋の環境整備を実施、父母、退職者の会も参加！／衆議院議員選挙の不在者投票を実施しました！ — 32
- ・コラム 秋の夜長にカミュのことを考える／蒔田明嗣 ————— 33
- ・慰霊式を挙／中 友美 ————— 35
- ・高台チャレンジクラブの皆さんが園庭の彫刻を見学 ————— 38
- ・ブックスタンド「グッドモーニング・トゥ・ユー
—ケニアで障がいのある子どもたちと生きる—」公文和子 著 (Forest Books) — 43
- ・夕陽ヶ丘保育所の園児がハロウィンを楽しみました！ ————— 45
- ・タカセ商店第1回展示即売会を開催！・大繁盛！・即完売！ ————— 45
- ・清水基金様の助成を受けマイクロバスを購入／フィールド・スタディで市内の高校生が来園！ — 46



適当にもほどがある？

原 誠之助

SF小説や映画にはさまざまなジャンルがあるが、タイムスリップものもその一つである。有名なところでは米映画のバック・トゥ・ザ・フューチャーであろう。デロリアンという乗用車型のタイムマシンに乗った年若い科学者と高校生が、過去の世界でさまざまな問題を起す。今年の一月に放送された「不適切にもほどがある！」もタイムスリップを題材にしたドラマで、話題にもなったので見られた方も多いのではないだろうか。リアルタイムでは見そびれ、録画もしていなかった私はこの原稿執筆に合わせ某映像配信サービスで楽しませてもらった。はなはだ便利な世の中になったものだ。高校生の娘と二人暮らしの中学校体育教師が昭和六十一年から令和六年にタイムスリップ、文字通り不適切だが昭和では日常茶飯事な言動で令和の世界をかき乱す。

コンプライアンス遵守、タイムパフォーマンス重視だが閉塞感漂う令和の日本、失われた三十年（ポスト昭和の三十五年間が丸々入るではないか）で苦しめられている日本、経済一流・政治二流だったが、今は経済二流・政治三流に劣化した日本、その元凶が私たち昭和世代にあることは明確だ。太平洋戦争後の混乱期を生き抜いてきた親世代のことを強く責められるはずもないが、この数年の政界は言うに及ばず、大企業や芸能界などでの雨後の筍の如き不祥事の連発は、ほぼ戦中・戦後の昭和体質が三十年の賞味期限が切れたあぐく破裂したものに違いない。小泉政権が行った構造改革は新自由主義のもと公共サービスの民営化を実現したが、社会全体の構造を

変革し世代交代を推し進めるまでには至らなかった。当時の（今現在でも）有権者のポリウムゾーンである昭和二十年代前半に生を受けた団塊の世代の理解を得られなかったためであろう、消費期限が切れる前（残り十年程度であろうか）に、日本はガラガラポンするべきだと思う。歴史を振り返ると明治元年（一八六八年）と太平洋戦争終戦（一九四五年）の間が約八十年、終戦から来年（二〇四五年）がちょうど八十年、年数だけではない、明治維新↓近代化・大発展↓敗戦による大挫折、戦後の混乱↓高度成長↓失われた三十年、と合わせ鏡のように相似している。過去二回の変革には江戸時代末期では黒船、昭和初期ではGHQの外圧が必要であった。多くの命や財産を失うことなく、今回は内部から平和的に能動的に変革しなければならない。

① シン・女性社会進出

女性の社会進出が進み、夫婦世帯の七割は共働きであるが、女性の正規雇用は男性の三割に過ぎない。税や社会保障などの複雑な制度により働き控えている方も多いと聞く。大いにもつたいではないか。いわゆるXX万円の壁を徹底的に撤廃し、働きたい方は法令で定められた上限まで働こう。労働力不足の解消にもなり、個人と世帯の収入も増加し、国としても税収アップが望めるはずだ。将来的には大谷翔平選手の大記録のように男女はフィフティ・フィフティになるであろう。

② 年功序列賃金の廃止による所得の再配分

同一労働同一賃金の義務化により給料を平準化し、最低賃金を欧米並みの現在の二倍にしよう。さらに政府は児童手当を、企業は子育て手当を増額し、若者と子育て世代の所得を増やしどんどんお金を使ってもらおう。消費減していなければならないが、増えた所得の一部は私たちの年金の原資になるはずだ。また、二千兆円を優に超える我が国の個人金融資産の大部分は世の中の何の役にも立っていない。生前贈与の上限をなくし、次世代のため資産を有効活用しよう。国に税金で取られるよりはるかにマシだ。少子化にあってもこれからの日本を支えるのは彼ら彼女らしいのだから。

③若者の大活用

選挙権を取得する年齢を〇歳に引き下げよう、もちろん扶養されている間の子どもに与えられた選挙権の行使は親の代行だ。あるいは若者や子育て世代には投票用紙を一人二枚交付しよう。二つの合わせ技でも構わない。人口ポリウムが少なくかつ投票率の低さから、政治に若者や子育て世代の意見が反映されていない現状を打破するためだ。文字通り「老いては子に従え」政策だ。経験も少なく、失敗することもあるだろう。私たちも昔はそうであつたではないか。ニコニコしながら温かく見守ればいいだけのことだ。どちらがこの世から先に消えるかを考えれば自明の理だと思う。

以上、三つの私案、コンプライアンス的にテレビCMでは必須の、「あくまでも個人の感想」を書かせていた。既得権益世代の先輩方には、適当にもほどがあるぞと、大炎上間違いなしの内容だが、「なんとかなる」とか「しょうがない」で思考停止状態の人々には少なくとも邪魔だけはしてほしくない。昭和のノスタルジーに浸るのは時代劇と化したドラマだけで十分だ。昭和を確実に消し去る覚悟を持って、昭和四十年生まれの私が六十の還暦を迎える昭和百年の来年を迎えたい。

【参考文献】

大橋牧人「それでも昭和なニッポン 一〇〇年の呪縛が衰退を加速する」(日経プレミアシリーズ)

●はら・せいすけ

社会福祉法人北海道療育園・理事／美幌療育病院・院長・医師